

2025年4月19日(土) 11:00~20:00

入場無料

MOTOSUMIYOSHI MUSIC FESTIVAL 第4回

元住吉ミュージックフェスティバル

in 川崎市 国際交流センターホール

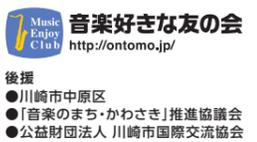
最寄駅：東急東横線・東急目黒線
「元住吉駅」西口徒歩10分
Add：川崎市中原区木月祇園町 2-2
TEL：044-435-7000

たくさんのアーティストが集いジャズ、クラシック、ロック、ポップスなどの楽曲が楽器本来の生音で一日中聴けて楽しめる手作り音楽祭です。

元住吉最大の音楽祭

主催 音楽好きな友の会 / MMF実行委員会
共催 Motton Club
後援 中原区 / 「音楽のまち・かわさき」推進協議会 / (公財)川崎市国際交流協会 / (公財)川崎市生涯学習財団 / (公財)かわさき市民活動センター / かわさきFM(79.1MHz) / (公財)現代人形劇センター / 人形劇団ひとみ座
協力 モトスミ・プレーメン通り商店街振興組合 / モトスミ・オズ通り商店街振興組合 / 井田中ノ町商栄会 / 木月一丁目町会 / 木月二丁目町会 / 木月三丁目町会 / 木月四丁目町会 / 井田共栄会第2町会 / 井田共栄会第3町会 / 井田共栄会第4町会 / ウチダイインテリアデザイン / 島倉 学ミュージックスクール / ソウリーヴ・ミュージック・スクール

お問合せ：mmf.info@ontomo.jp



2025 4 April

2025年4月はお休みです。

音友レコード倶楽部
レコードコンサートのプログラムは「Light Music/軽音楽の集い」や「Jazz/ジャズの集い」・「持ち寄りタイム」・「持ち寄りレコード/CDを聴く」をテーマに開催中。

松坂 純一(まつざか じゅんいち):トランペット
1962年川崎市出身。小学生の頃家族で見た「グリーン・ミラー物語」でビッグバンドに憧れ、小学5年より始めたトランペットでビッグバンドに参加すること数十年。現在は3つのアマチュアビッグバンドに所属し、リード・トランペットを担当している。
単独でのコンサートの他「かわさきジャズ」や「すみだストリートジャズフェスティバル」などの音楽イベントへの参加、ダンスパーティーでの演奏等で活動している。

2025年4月16日号
2025年3月16日発行
(毎月16日発行)
第122号
発行・編集人：塚田親一
編集：藤田順治 / 大塚明弘 / 佐伯奈々重
発行：音楽好きな友の会
川崎市中原区木月2-21-32
TEL 090-9398-2889
2025-3-16-800 Printing IT

連載02 ヴァイオリン王子が贈る "Buono!"なヴァイオリンのお話

起源は中東?アフリカ?ヴァイオリンの歴史

Buono Naoki

ヴァイオリン奏者 坊野 称央己

ヴァイオリンというヨーロッパで生まれた弦楽器というイメージが強いですが、その起源は実は別にあることをご存知でしたか?今回は、意外と知られていないヴァイオリンの起源について、お話していきます。

日本では奈良に平城京という都があり、古事記が完成したとされている8世紀。この時代に北アフリカのイスラム系民族ムアア人によって、ヴァイオリンの起源となる楽器がスペインに持ち込まれたと言われています。その楽器は「レベック」と呼ばれ、ヴァイオリンと同じ擦弦楽器にあたります。「動物の毛が張られた弓で弦を擦り音を出す」そのようなシンプルな作りの民族楽器はたくさんあるため、アフガニスタンなど中東のラバブが起源だったとされているとも言われています。そのような楽器たちは当時イスラム教の布教、拡大により西アジア、ヨーロッパ、東アジアへと広がって行きました。

そして現代のヴァイオリンが最初に製作されたのは1500年前半、現存されている最も古いヴァイオリンも1565年

製のものと言われています。最初の制作者は「アンドレア・アマティ」。その孫のニコロや、誰もが一度は耳にしたことのある銘器「ストラディヴァリウス」を生んだストラディヴァリやガルネリといった、クレモナの弦楽器職人が活躍した黄金時代では、200年間でおおよそ2万挺が製作されたのでした。

なお日本では1880年に三味線職人の松永定次郎さんによって製作されています。その8月28日は今でも「ヴァイオリンの日」とのこと。(私も知りませんでした!)

ちなみに私の愛器は1926年製のブダペスト生まれ、今年で99歳になります。(まだまだ若いですね!)銘器は300年以上も素晴らしい状態で弾き継がれていますので、私の楽器もこれらももっとも熟成された素晴らしい音色を紡いでくれると、ワクワクしています。

Violinist: 坊野称央己・OfficialSite
naokibono-violin.com

MMF 第4回元住吉ミュージック・フェスティバル開催にあたり

昨年「第3回元住吉ミュージック・フェスティバル(MMF)」は、代表の急遽不在のなか、総合司会、音友レコード倶楽部、横浜旭ジャズまつり参加のスタッフ、地域のボランティアの方々の進行で波瀾万丈のなか無事に開催が出来た難うございました。昨年のMMFに引き続き同様のなかですが観客参加の皆さんの暖かい声援により今年も開催の運びとなります。

昨年9時間の開催にもめげず進行に頑張っていたFMかわさきラジオパーソナリティーの若林かおりさんへ変わり、

第2回元住吉ミュージック・フェスティバルで夫婦音楽漫才でステージを楽しませて頂いた「ミニッツ」のMCで進行します。

第4回のMMF-2025も幅広いジャンルの演奏で子供さんから高齢世代の皆さんをより楽しませて貰える一日となりますのでご来場して演奏者の皆さんと一緒に楽しみください。

開催にあたり地域の皆様をはじめ、各町内会、商店会、川崎市国際交流協会、地域のさまざまな行政機関、マスコミ関係者のお力添えを頂き誠に有り難うございました。

また、出演する演奏者の皆様のご協力も有り難うございます。

音楽好きな友の会代表
元住吉ミュージック・フェスティバル実行委員会代表
塚田親一

第4回元住吉ミュージック・フェスティバル
出演団体紹介はこちらからご覧ください。

川崎市国際交流センター

川崎市生涯学習プラザ

ポッチャで多文化交流

日時:5月17日(土)10:00~12:00
会場:川崎市国際交流センター ホール
対象:小学生以上、国籍は問いません。
定員:24名程度(先着順)
参加費:無料
申込み:申込フォームから申し込んでください。
(4月1日から申込受付開始)

出演:Les Cloches (レ・クロッシュ) / ピアノ、チェロ
宇宿真紀子と宇宿直彰による姉弟デュオ。「レ・クロッシュ」とは、フランス語で「鐘」の意味。国内外で活躍。今までに多数のCDをリリース。

●曲目予定
・ベッリーニ:マリンコニア(Vc&Pf)
・J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲第2番より「プレリュード」(Vc)
・シューベルト:セレナーデ(Vc&Pf)
・シューベルト:アルペジオ・ネソナタ 第1楽章(Vc&Pf)

●日時:2025年4月17日(木曜日)
12:00開場 / 12:10開演 / 12:40終演予定
●料金:無料
●場所:川崎市生涯学習プラザ・1Fロビー

●お問い合わせ
公益財団法人川崎市国際交流協会
TEL 044-435-7000
E-mail:kiankawasaki@kian.or.jp
ホームページ https://www.kian.or.jp/

●お問い合わせ
公益財団法人川崎市生涯学習財団 総務室 総務係 ロビーコンサート担当
TEL 044-733-5560 E-mail: concert@kpal.or.jp
川崎市中原区今井南町28-41
ホームページ https://kpal.or.jp/

音楽好きな友の会(音友会)

4月8日は「ヴィーナスの日」

エーゲ海のミロス島の洞窟で1820年4月8日に農夫のイオルゴスが紀元前1300年頃に作られたとされる「ミロのヴィーナス」像を発見したのでこの日を「ヴィーナスの日」と命名されたらしい。

「ヴィーナス」の名前がついた楽曲は昔ポップチャートでヒットした「ヴィーナス」という曲が有名で今回とりあげてみた。ちょうど筆者が中学生の時にヒットしていた曲で当時、毎日の様にこの曲がラジオから流れていた。「ヴィーナス」は、オランダのロックグループ「ショッキング・ブルー」が1969年にリリースしたシングル。大変親しみのあるリズム感あふれる曲で一度聴いたら忘れないメロデーである。

この曲は日本においても尾崎紀世彦、山口百恵、倅田来未、中森明菜など有名歌手にカバーされている。YouTubeで現在も流れているので興味を持った方は是非、お聴きになってみては。

2025年4月末定のお知らせ!!
第125回音友レコード倶楽部は会場都合で未定です。
※詳しくは「音友会」のホームページでお知らせします。

https://ontomo.jp

音友レコード倶楽部PR動画!
「音友レコード倶楽部」をわかりやすく説明したPR動画を是非ご覧ください。

常連の参加者との共同製作です。
撮影・編集はギター奏者の永瀬晋が担当。
新規参加の前に、ぜひご覧ください。
YouTube配信中。



連載08 オカリナに誘われて 音楽は面白い

Kotanagi Emiko 小堀 恵美子



『思い通りに演奏できる!オカリナ上達のポイント50』監修出版。神奈川県・東京を中心に演奏活動しています。第二・四(水)、(金)には、武蔵中原駅近くのコーヒースポットライブにて、オカリナ体験できるレッスンや、オカリナのお悩み相談を受けるレッスンやイベントを開催中。2025年4/9(水)、11(金)オカリナ吹奏会&花ミラリアを開催します。オカリナを持ってご参加ください。ご予約受付中。090-2436-5985 花

Instagramも是非のぞいてください https://www.instagram.com/emikokotanagi/

Instagram @emikokotanagi



前号で書いたように、私はアドリブの勉強をして、世界が広がりました。もっと自由に音楽を楽しんで良いのだとわかりました。でもオカリナの指導をしていると、やっぱり逆の事が起こります。ここはこの音、このリズムがこれが正しい、と私は生徒達を間違えないように吹く世界に連れて行こうとします。そこで、みんなが間違える傾向にある箇所は、吹きやすいように変更し、もっとのびのび吹いてもらえるようにし始めました。以前は楽譜通りに吹けるように指導していましたが、吹きやすい音に吹きやすいリズムに変えることで、みんなが少しでも楽しく演奏出来たらいいなと、思えるようになりました。ただ、どうしても変えようがなかったり、リズムを変えすぎて、逆に苦情が来ることがあります。でも、もっともっと楽しんで欲しい。間違え探しの演奏じゃなくて、のびのびと演奏して欲しい。これが、今の私の指導する核になっています。色々練習しても間違えることもある。そこで、あー間違えちゃったからと諦めた演奏をするより、間違えから立ち直って、より丁寧に演奏したら、それはきっとお客様にも届くと思うんです。そんな演奏

ができるような人たちになってほしいと願っています。意外と音楽は止まらなければ、間違えもそんなに気にならないの。 私が参加しているアドリブセッションで、曲のセッションをすると 最初に1人がメロディーを演奏してから、順番にアドリブをしていき、最後にまたメロディーを演奏して終わります。メロディーを演奏する人は、みんな楽譜など見ないで記憶を頼りにメロディーを演奏するので、一人一人の個性が出ます。私はそれがとっても素敵だなと思いました。楽譜に忠実に演奏していると誰が演奏しても大体一緒。私も私の個性を演奏に出したいと思いました。そこで、昨年は暗譜して演奏することに挑戦しました。結果はとっても良かったです。ただ、演目が少しずつ増やせません。でもアドリブも入れているので、毎回演奏が違います。感じた音で演奏しているので、以前よりお客様の反応も良くなったように感じています。ほんとと音楽は面白い。

特別寄稿 Conversations 音友レコード倶楽部・音楽談議

アナログレコードで味わう“良い音”

Shiranita Kazuhiro

DJ担当:白仁田 一浩

『アナログレコードブーム』が続いている。趣味としてのオーディオが廃れたしまった今、何とも嬉しい現象である。スマホや携帯音楽プレーヤーによるストリーミングなどで良い音が当たり前のように簡単に手に入る現在(もはや「良い音」という概念さえ消えつつあるのかもしれないが…)、その利便性とは真逆のアナログレコードがデジタル世代の間で受け入れられ、一部のアーティストは新譜をアナログ盤で発売するほどである。若い世代の間では「デジタル疲れ」と言われる現象も聞かれ、コレクション性やアートとしての物理的価値を持つ大きなジャケット、そしてスクラッチノイズ(パチパチ音)の混じった耳当たりの良い音が支持されているようである。加えて、昭和歌謡ブームのように、アナログ時代に生まれた音楽はその時代のメディアで楽しみたいという趣向もあるのかもしれない。そこで今回は筆者が愛

聴するアルバムの中から、是非ともレコードで楽しんでもらいたい5枚を紹介しようと思う。ジャケットや演奏内容はもちろん、録音も素晴らしいものばかりである。なお、個人的には「良い音」とは必ずしもクリアでレンジの広い音ということではなく、『聴き易さや心地良さ、そしてそのアーティストや演奏内容に見事にはまっている音作りが大切』だと思っているのでご承知おきを。

まずジャズ・ヴォーカルから、アン・パルトンの「He's Funny That Way」(写真①)。1977年のダイレクト・カッティング盤で、驚くほど自然で生々しい音をレコードでも再生できることを見事に証明してくれる1枚。続いてはロック。ご存じスーパーグループ1979年の大ヒット盤「Breakfast In America」(写真②)は今でも根強い人気を持ち、メロディアスでポップロックとしての完成度が高い名盤。リンダ・

ロンシュタットの「Get Closer」(写真③)は、鋭くかつクリアで耳当たりの良いドラムのアタック音が彼女のエネルギッシュなヴォーカルを引き立てる。J-POPからも2枚。松任谷由実の「水の中のASIAへ」(写真④)は4曲入りの45回転ミニアルバムで、ゆったりと流れる「スラバヤ通りの妹へ」の心地良さは格別。八神純子の「夢みる頃を過ぎて」(写真⑤)はCDが登場した1982年に「デジタル録音」としてリリース。透き通るシルキー・ヴォイスと上質で自然な音質に引き込まれる。

音の良いレコードに共通して言えるのは「音量を上げて聴いても全く苦痛や耳につく不快感を感じない」ということ。それどころか心地よい柔らかさを感じられるのがレコードの音である。

そんなレコードの魅力を存分に味わえるのが音友レコードコンサートであり、再開の日を待ち望んでいる。



▲①. He's Funny That Way/Ann Burton



▲②. Breakfast In America/Supertramp



▲③. Get Closer /Linda Ronstadt



▲④. 水の中のASIAへ /松任谷由実



▲⑤. 夢みる頃を過ぎて /八神純子

特別寄稿 Conversations 音楽談議

ボランティアの楽しみ方と生の音楽の聴き方

Egawa Kumi

料理研究家・ピアニスト:江川 公美

ホールで楽しむクラシック・コンサート

私は楽器の中でピアノが一番好きです。

ひそかに、チェロもやってみたくて思っているのですが(笑)、ピアノが好きと言うこともあり演奏会でピアノソロがある、と音が飛んでくるのがどうしても気になります。

基本、オケを聴きに行くときはバルコニー席があればそこを選びます。西新宿・初台の複合文化施設の「東京オペラシティ」だと舞台の右上。ピアノソロがあれば手元が見たいので左上をキープ。楽器全体の音を頭からシャワーのように浴びることが出来、最高です。また、舞台袖が見えるので演者や指揮者が出てくるタイミング、ちょっとした舞台裏も垣間見れるので面白いです。

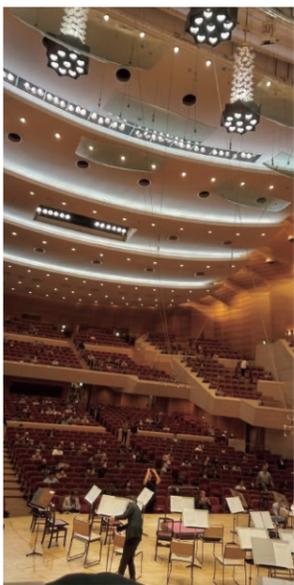
六本木の「世界一美しい響き」との『サントリーホール』はこじんまりとしていて、演者と観客の席が近いところが良くここでも舞台後のP席の1~3列目をキープ。私がボランティアスタッフをしている日フィルのホームが『サントリーホール』なので、東京定期演奏会のシーズンチケットを購入して通ったりしています。ここはホントに楽団員の楽譜が読めるくらいに近く、1m以内で奏する音を体感できます。

この間も小林研一郎氏が指揮のもと、若手ピアニストのオケがありました。曲目が終わった後、普通指揮者は観客には後ろ姿ですがバルコニー席だと真っ正面、表情がすごく良くわかります。各パートに指示の送り方等…小林氏は若手ピアニストの演奏が終わった後、彼に「Good Job」のサインを何度も送り称えていました。また、袖に戻った彼を手招きで呼び戻したりと…ホノボノとしたやり取りも見れたりします。

私が指揮者で一番好きな宮本文昭氏はそれは踊るように指揮をし、かつエネルギーがすごい!その姿にいつもパワーと明日の活力をもらっていました。宮本氏はドイツの交響楽団でオーボエの首席奏者からの転向なこともあり、各パートに『あなたはどんな音を奏でたいですか?』と問いかねながら創り上げたハーモニーなどで各楽器のメッセージを感じながら聴いていました。

コンサートに行く度に、心が浄化され、琴線が震え、不思議な力が満ちて行くのを感じてました。 それは今もそうです。オケを純粋に聴くのであればバルコニー席が良いのですが、ピアノソロが入って来ると、これまた話が違って来ます。バルコニー席でも、奏する手元が見たいの

で、左側を狙わないといけません(笑) それが出来ない時は、あらかじめ好きなバルコニー席でおとなしくピアノの音が降ってくるのを待ちます。 今回は、このくらいで…



▲サントリーホール

連載25 脱線ニューヨーク滞在記 前号からのつづき

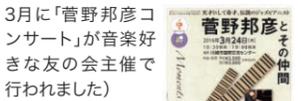
Demura Katsuki

出村 克明

『JAZZスラッグス』に入りました。当日のライブは終わりスタッフが後片付けをしていました、同時にこれからセッションを始めるメンバーがセッティングを、その日行われたライブのメンバーが何人か残り、それにマスオ、他が加わってのセッションだった様です、人や機材がごちゃごちゃしてるそんな様子を眺めながら、口フドで見ていた「ダ・ヴィンチ」のパロディ本をどういうわけかそのまま手にして持って来ていたのでバラバラめくってました。そこへ陽気な感じの男が「何してるの?」って近寄り本を眺め笑いながら本を取って裂けるほど開き手にしていたポテトチップスの袋を逆さにして全部かけ腹から絞出すようにクッククと黒人特有な感じで笑いつづけました。僕も内心それほど可笑しくなかったのですがつられて力なく笑いました。酒か薬で翔んでいた感じもありましたが、シニカルな天恵を受けたようでもありトリックスターのいたずらかなと。その先はトリックスターの事も僕自身の事も、少し経って始まったと思われるセッションの事すらもトリックスターのおまじないなのか?記憶が消えています。今度マスオに会って「トリックスター」ポール・ラディン、カール・クレーニ、尾好秋)は以後NYで音楽活動を続け活躍しています。前述したシャーリーと結婚し何年か前にペンシルバニアに引っ越しましたが、日本でもデュオやバンド名「マガタマ」を率いて活動しています。

3月に「菅野邦彦コンサート」が音楽好きの会主催で行われました NYで会った当時、菅野さんは六本木に在った今は無き伝説のJAZZクラブ『ミステリー』のオーナーより初代ピアニストとしてと共に彼が気に入ったニューヨークスタインウェイのフルコンサートグランドピアノを選んで欲しいと依頼されました。 NYスタインウェイは彼が宿泊していたヒルトンホテルから徒歩数分の処にあり連日気に入ったピアノを選ぶべく試弾に行っていました。そんなある日グランド・グールド(ピアニスト)と居合せ、菅野さんの試弾を聴いていたそうです。

(聴いていた繋がり脱線しますが首相官邸の前にある現在ザ・キャピトルホテル東急が『ヒルトンホテル』だった頃、菅野さんはラウンジでピアノを弾いていました。そこへ1966年ビートルズが初来日し滞在しました。が、ホテルの廻りを大勢のファンで囲まれ佐詰状態になり毎夜ラウンジに来てパーティーの裏で目立たない様に菅野さんのピアノを聴いていたそうです) そして選ばれたピアノを日本へ送る事になったのですが、船では時間が掛かるので、JALニューヨーク支店長



に頼み込んで史上初のフルコンサートグランドピアノの空輸となりました。一難去ってまた一難、日本に着いて店は完成していましたが、ピアノが大きすぎて入らないので入口を壊して入れ、造り直す事になりました。

「ミステリー」繋がり分かりませんが偶々同じころ「エロル・ガーナー」が「セントレジスニューヨーク」ホテルの地下のナイトクラブに出演していて、菅野さんが見に行きそのナイトクラブのエレベーターの中で偶然ガーナーさんと一緒になったそうです。彼は何を聞いても「グティグティ」と云って握手してくれたそうです。

菅野さんとのそれ以後の付き合いの中で、大分前になりますが、彼がブラジルから僕に飛行機チケットを送ってきて「これからU.F.O.を撮ろう」ということになりビデオカメラ(当時はカメラと本体が分かれていて重かった)や録音機(これで僕が現地録音したものがアルバム「オーバ・ブラジル」に挿入されています)を菅野さんの取計いで、ピクチャーから寄贈してもらい持って行く事になりました。無事飛行機はフェルトリコを経由して日本の裏側ブラジル・サンパウロに着きましたが…

次号へ



▲Good Morning/増尾好秋



▲Opa Brasil/菅野邦彦



▲Plays Misty/Erroll Garner

連載01 ビッグバンドピアニストから見る風景 ピアノの役割とは?

Hatah Hideko

ピアニスト 羽當 英果

大学の新生入生歓迎コンサートでビッグバンドジャズと出会ってから早数十年が経ちました。アマチュアではありますが、ビッグバンドのピアニストとして、毎年のようにどこかで本番を経験させてもらっています。そんな中で日々感じる事を書いていこうかな、と思っています。

一般の方に説明するためにchatGPTに「ビッグバンドとは」聞いてみた所、「ジャズの演奏を主とし、トランペット、トロンボーン、サクソフーンなどからなるホーンセクションと、ピアノ、ギター、ベース、ドラムなどからなるリズムセクションで構成されており、20人程度で行うバンド形態である」との回答でした。ただ、少し味気ないので、皆で奏する分厚いハーモニーと華やかな音、小気味良いリズムが多いのも魅力だという事も補足しておきます。イメージし易いのは「ルパン三世(80)」のテーマ、最近では、NHK朝の連続ドラマの「プギウギ」のテーマ曲が

記憶に新しいでしょうか。

そんな中で私が演奏しているピアノは美しいリズムも奏でられるのに、バンドの中ではリズム隊。そして、ホーンセクションやドラムの音量に負けちゃって聞こえ無いことも多いので、ビッグバンドにおけるピアノの位置付けは、はっきり言ってとても地味。もっと自分を醸し出せるソロ等で演奏した方が楽しいのでは、とよく言われます。

それでも、私が長年演奏を続けているのは、ピアノの役割に意義を見出しているからこそ!です。曲の中にいくつか存在する隙間に効果的な音を入れたい、ドラムとは違う観点からホーンセクションが入り易くなるタイミングに音を入れる等、ピアノは楽曲をより良く

演奏していくために、譜面では書かれていない部分のアシストや味付けができる、いわば調味料的なパートだと私は思っています。

同じ楽譜を渡されても、弾く人によって入れる場所も音も変わってくるビッグバンドのピアノ。自身のオーケストラも率いている、カウント・ベイシー、デュック・エリントン両大御所のピアノフレーズなど、皆様も機会があれば「ピアノに注目した聞き方」をされてみてはいかがでしょうか。

また次回の「ビッグバンドピアニストから見る風景」をお楽しみに!



▲筆者参加の「修善寺バンド」

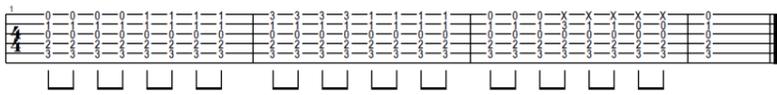
連載83 Course: Addicted to Guitar Cコードを使ったジャンル別パターン (コードのトップノートを動かす)

Nagase Susumu

ブルースロックピニスト 永瀬 晋

いつもお世話になっております。引き続きギターを始めたばかりの方への攻略コラムを紹介していきたいと思えます。今回もジャンル別パターンネタとなりまして「コードのトップノートを動かす」のご紹介。この奏法はその名のとおりコードの一番高い音(目立つ音)を変化させて流れを作る方法で、ジャンル別パターンというよりは、伴奏、ソロと色々なシチュエーションで使えるネタですので覚えておくとう便利です。どんな感じになるか早速譜例をチェックしていきましょう。使う形は皆さん大好きなCのコードが土台と

なっていて、何も変化を加えなければ一番高い音は1弦の開放のE(M)ですね。ここから1弦1FのF(ファ)、3FのG(ソ)、2弦開放のB(シ)、3FのD(レ)を混ぜていくことで、コードを弾きながらメロディーを感じさせる演奏をすることができます。単純に譜例のように音を上行、下降するだけでも結構インパクトがありますが、メロディーっぽい感じで仕込んでおくとさ



ソウリーヴ・ミュージック・スクール SouleaveMusic School http://souleave-music.com/ 元住吉駅徒歩3分、武蔵小杉駅徒歩13分 チケット制 音楽教室 Tel 044-750-8992 レッソンは8:00~22:00開始迄、詳細は要連絡

MOTTON CLUB 全国のミュージシャン、そして音楽活動に関わる人をネットワークしたい。演奏の場を創り、ライブと楽曲の発信活動を後押しが目的です。元住吉から世界に向けて配信しています。登録アーティスト募集中心!演奏者の方々で「モットンクラブ」から配信希望の演奏動画を募集しています。(近郊で企画、運営可能なスタッフも募集中)

